

## 令和8年度 学校経営計画表

## 1 学校の現状

学校番号	31	学校名	茨城県立東海高等学校					課程	全日制		学校長名	阿内 勉					
教頭名	関谷 隆志										事務（室）長名	鈴木 博幸					
教職員数	教諭	31	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	5	実習教諭、実習講師、実習助手		1	事務職員	3	技術職員等	3	計	51
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数					
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	普通科	53	93	47	107	50	100			150	300	12					

## 2 目指す学校像

- ・生徒、教職員、家庭、地域が連携し、地域社会から愛される学校
- ・一人一人の自主性、2つの自りつ（自立・自律）性を育むとともに、明るく誠実で、知性豊かな、心身ともに健康な生徒を育成する学校

## 3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	地域を支える核となって活躍する、社会に貢献できる人財の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	生徒一人一人の幅広いニーズに対応した教育課程による、就職から進学までの進路希望実現
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	自己実現・進路目標実現を目指し、日々努力する生徒の受け入れ

## 4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導（教育課程）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲、目的意識に生徒間で温度差がある。</li> <li>・基礎学力不足の生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受験を含めた進路実現に対応できる基礎学力の向上</li> <li>・学習意欲の向上</li> </ul>
進路指導 キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生146名のうち、進学者102名、就職者40名、その他4名。</li> <li>・国公立大学を目指し、推薦入試や一般入試に挑戦する者が大幅に増え、現役合格者を2名を輩出することができた。</li> <li>・公務員試験合格者2名を出すことができた。</li> <li>・進路希望が決定できず、目標設定が遅れるため準備が遅れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年から進路意識を身に付けさせ、具体的な目標を持たせる指導が必要</li> <li>・基礎学力を向上させる課外や推薦入試対策を継続し、ノウハウを蓄積することで、国公立大学合格者を継続して輩出したい。</li> <li>・公務員試験に挑戦する者を増やしたい。</li> <li>・キャリアパスポートの効果的な運用</li> </ul>
地域との連携 （保護者、地域住民等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動や生徒会の村主催イベントへの参加。</li> <li>・学校公開、東海村との協働（東海村とのフレンドシップ協定）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に貢献できる人材の育成。</li> <li>・村、近隣中学校等との連携の推進。</li> </ul>
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤怠システムの利用で各職員が超過勤務の軽減を意識</li> <li>・部活動指導員、外部指導者の利用による、顧問の負担軽減</li> <li>・8月を除いた月平均超過勤務の平均は19時間13分、月平均45時間以上超過者1名、80時間以上超過者は0名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1日の定時退勤日を設定</li> <li>・超過勤務月平均45時間以上の職員0名</li> </ul>

別紙様式1（高）

5 中期的目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人の学力向上と意欲的な学習を促すため、生徒の能力に応じたきめ細やかな授業を展開する。</li> <li>・進路目標を早期に明確化させるとともに、望ましい勤労観・職業観の育成を図る。</li> <li>・基本的な生活習慣や規範意識を身に付けさせると共に、家庭との連携のもと、心の教育の充実を図る。</li> <li>・地域社会との連携を深め、教育活動の充実を図る。</li> <li>・働き方改革を推進し、教職員の組織力を生かした勤務体制を図る。</li> </ul>
--

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
観点別学習状況の評価を生かし、基礎基本から応用まで学習指導を行い、ICT等を活用しながら授業改善を行い個々の学力向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画表を活用して、組織的・計画的な学習指導を推進する。</li> <li>・ICT等の活用を含めた指導法の工夫・改善に努め、基礎的・基本的な知識の定着と応用力の育成を図る。授業評価アンケートを活用、授業満足度平均3.3以上を目指す。</li> <li>・個々の学習課題を提示することで学習目標を明確にさせ、生徒の意欲を喚起する学習指導を行い、学力の向上を図る。</li> <li>・全ての生徒がタブレットを授業開始時に机上準備できる体制を目指す。</li> </ul>
多様な個々の進路希望にむけ、指導体制を確立し指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集の不安解消に努め、進路実現のために必要な情報提供を図る。</li> <li>・就業体験(インターンシップ)や幼稚園体験実習、1日看護体験等をとおして、自立心や職業観を育成し、キャリア教育の充実を図る。</li> <li>・進学、就職、公務員のための学習指導の充実を目指す。</li> </ul>
基本的な生活習慣の確立を図り、社会に通用する自主的・2つの自りつ(自立・自律)的な態度の育成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服装、頭髪、公衆道徳等の指導を通して、規律ある明るい学校生活を確立するとともに、全職員が共通理解のもと一貫した生活指導を行う。</li> <li>・日々の教育活動の中で自主的・2つの自りつ(自立・自律)的な態度の育成を図る。</li> <li>・情報モラル・公共マナーの指導等をとおして、健全な心と社会性を育成する。</li> <li>・生徒が気軽に悩みを相談したり、気持ちを落ち着かせたりする居場所を校内に整備する。</li> </ul>
生徒会活動・部活動を奨励し、スポーツ・文化・芸術を親しむ態度と達成感や連帯感の育成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的・主体的な生徒会活動・部活動の活性化をとおして、集団の一員としての自覚、他と協調できる豊かな人間性を育成する。</li> <li>・部活動の3年間継続を目標とさせ、技術・体力の向上を図り、心身ともに健全な生徒の育成に努める。</li> <li>・キャリアパスポートを活用し、学校行事、部活動などでの様々な体験や学びを通して、人間関係形成、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力の伸長を図る。</li> </ul>
地域と連携し、信頼される魅力ある学校づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行事等に積極的に参加し、東海村職員と協働したり、地域の行事等に積極的に参加したりすることで、地域との連携を深める。(東海村とのフレンドシップ協定の活用)</li> <li>・積極的な広報活動(新聞、村広報誌等、各種メディアへの情報提供)により学校の活動状況を発信する。</li> </ul>
働き方改革を進め、教育活動の精選と充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務の適正な分担を図り、月1日の定時退勤日を設ける。</li> <li>・ICT等の活用により教材の共有化・業務の効率化を図り、教員と生徒が向き合う時間を確保する。</li> <li>・超過勤務時間月平均45時間以上の職員0を目指す。</li> </ul>
創立50周年記念事業の成功に向けた準備を計画的に進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年11月に予定されている「創立50周年記念事業」に向けて、各係の活動を活性化する。</li> </ul>